

令和4年度 第1回鳥取市下水道等事業運営審議会 議事録

1 日 時 令和4年10月20日（木） 14:00～16:00

2 場 所 下水道部庁舎 3階大会議室

3 出席委員 戸苅丈仁会長、高部祐剛委員、藤井光洋委員、
林浩志委員、民野千秋委員、前田四寿子委員
牛尾柳一郎委員、岸本祥治委員

4 議 案 議 事 (1) 会長選任
(2) 鳥取市下水道等事業の経営状況について

5 議 事

発言者	質疑応答
事務局	<p>定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第1回鳥取市下水道等事業運営審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局を担当しております、下水道企画課課長補佐の藤田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。なお、本日は所用のため中村委員、西原委員、外山委員、中島委員が欠席されております。</p> <p>委員定数12名のうち8名のご出席を頂いておりますので、審議会条例第6条の2によりまして、過半数出席ということになりますので、会議を開催させていただきます。会の進行につきましては、会長が決定するまでは事務局で説明させていただきます。それでは、開会にあたりまして下水道部長坂本よりご挨拶申し上げます。</p>
下水道部長	<p>失礼いたします。下水道部長の坂本と申します。本日はお忙しい中、下水道等事業運営審議会にご参加いただきまして、ありがとうございます。専門委員の皆様におかれましては委員の就任にあたりまして、快くご承諾いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>ご承知の通り、運営審議会ですけれども、公共下水道と集落排水の運営に係る重要事項について調査、審議いただく附属機関となっております。今年度は経営戦略や下水道使用料の見直しがない年になりますので、皆様方の出番は少し少ない年ということで、会の開催にあたりまして、今回、1回限りということになります。下水道行政が抱える課題といたしましては、未普及の解消、耐震対策、浸水対策、脱炭素の取り組み、手続き等の電子化と、課題が山積しております。この後3年度の下水道事業の決算のご説明</p>

下水道部長	<p>をさせていただきます。そちらにつきまして、ちょうど今、来年の予算要求の時期になっておりますので、いただいた意見をしっかりと事業の見直しや、来年度予算編成に、できる限り反映させて参りたいと考えております。忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ご意見をいただくことをお願いいたしまして私の挨拶と代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は審議委員によります、初の審議会になりますので、ここで委員の皆様の紹介をさせていただきます。</p> <p>それではお配りしております名簿順にお名前をお呼びいたしますので恐縮ですがその場でご起立をお願いいたします。</p>
～審議会委員・事務局自己紹介～	
事務局	<p>続きまして、次第４番、議事、(１)の「会長選任」に移ります。本審議会の会長は、審議会条例第５条第１項の規定により、委員の互選により定めることとなっております。どのように取り計らわせていただきましょうか。</p>
委員	事務局案の発案要望。
事務局	事務局の案といたしましては、前回会長代理をしていただいております、戸荻委員様にお願いできたらと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。
委員	異議なし。
事務局	<p>では戸荻委員様に審議会の会長をお願いすることに決定いたしました。戸荻会長様、正面のお席にお座りください。</p> <p>それでは改めまして戸荻会長様のご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>鳥取環境大学の戸荻と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>現在の汚水処理普及率は、全国的にも非常に高い値となっていて鳥取市は９７％を超えていると伺っております。そうした中で当然まだ未普及のところ、着実に普及させるということや、接続率の向上や、以前に設置した管や設備の老朽化、それが適切に能力を発揮するように維持管理していくこと、人口減少の中で効率的な処理、下水だけでなく、廃棄物全体として効率的な処理や広域的な処理というのが求められる時代になってきてまして、非常に取り組むべき課題は多いかと思えます。、今回は、様々な方々が委員としてご参加いただいておりますので、いろいろな視点でご意見をいただいて、そういった課題をクリアしていく力になればというふうに考えております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	ありがとうございました。

事務局	では、本審議会条例第6条第1項の規定によりまして、会議の議長は会長が務めることになっておりますので、これからの議事進行につきましてよろしく願いいたします。
会長	それでは次第に従いまして議事を進めさせていただきます。 まず会長代理の指名となっております。本審議会の条例第5条第3項にありますように会長が欠けた場合に、職務を代理していただく方をあらかじめ私の方から指名させていただくこととなっております。こちらを高部委員にお願いしたいと考えているのですが、いかがでしょうか。
委員	委員了解。
会長	次に議事録の署名委員の指名になります。この審議会では、議事録を作成するにあたって、2名の委員さんに議事録の署名委員になっていただいております。議事録署名委員は事務局が作成した議事録を確認した後、署名をいただくというもので、審議会の名簿順に2名ずつ指名させていただいております。今回は出席いただいている方から、名簿順で、高部委員と藤井委員へお願いすることとなりますが、よろしいでしょうか。
委員	両委員了解。
会長	それでは、後日事務局が議事録を持参いたしますので、よろしく願いいたします。 それでは4の議事(2)「鳥取市下水道等事業の経営状況について」に入ります。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	～事務局説明～
会長	ありがとうございます。ただいまの説明に関してご意見、ご質問等あればお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。
委員	大変丁寧な説明ありがとうございました。 資料の8ページについての質問です。地震対策の処理場及びポンプ場数が、目標値の53施設に対して現在値が54施設とすでに超えています。このことについて、10年計画の前半部で数値を超える計画だったのか、後半部に数値を伸ばす計画はあるのか教えていただきたいです。
事務局	ご指摘の通り、処理場及びポンプ場数の現在値が目標値をすでに超えているということで、これは、前倒しで事業を進めた結果でございます。このようなこともございますので、来年度の事業計画の見直しにあたっては、目標値自体を上げていくというようなことも考えているところでございます。
委員	ありがとうございます。
会長	その他はいかがでしょうか。
委員	10, 11ページの耐震管と道路の陥没について2つ質問がありま

委員	<p>す。</p> <p>1つ目は地震対策の耐震化と老朽化というのは同じようなことで考えた方がいいのか、その対策として、取り入れるということで考えればいいのか教えていただきたいです。</p> <p>2つ目は耐震化が未実施の管路が75キロあるということで、老朽化も含めて耐用年数50年の内に整備が完了できるのか、その見通しをお尋ねしたいと思います。</p>
事務局	<p>老朽化の対策につきましては、例えば管路でしたら管路のすべてを対象にしています。一般の耐震化の改修につきましては、全部で1500キロある下水管のうち重要幹線とする135.7キロを対象に進めています。進捗は50年以内には難しいかもしれませんが、長寿命化のストックマネジメント、総合地震対策計画で、現在はポンプ場・処理場をメインとして長寿命化と耐震化を進めていまして、もう少し後の段階で、管路の整備を伸ばしていく計画となっています。耐震化の整備は、下水管を新しく作り直したり、管路更正という、下水管の中に、新たに管路を築造して管路を補強していくやり方をとっています。長寿命化は、耐震化の改修と同じ工法をとっておりまして、長寿命化も耐震化とあわせて、管更正によって長寿命化を図っています。その長寿命化を図るときに、重要幹線については、耐震化が図れるような方法をとっていきますので、両方で補完しながら事業を進めていく形になっています。</p>
委員	<p>確認なのですが、重要幹線の135.7キロは50年以内に耐震化はできないということでしょうか。</p>
事務局	<p>耐震化の整備を進めるとともに一方で、同じ手法を取る長寿命化という管路の改修でも整備をすることになります。重要幹線については同じ管更正という工法でやっていきますので、50年までに耐震化を図るところは目標として進めていきたいと考えています。</p>
下水道部長	<p>少し捕捉しますと、まず耐震化は終末処理場とポンプ場の方を優先してやっています。なぜかと言いますと、国の補助事業で行っているものですから、補助の配分は毎年決まっています、なかなか管路の方まで事業量を増やしていきたいがなかなか増やせない、増やそうと思えば単独事業になって今度は下水道使用者、利用者の方の負担が増えざるをえなくなってしまう。その辺はバランスを見ながら事業費をコントロールしているところでして、先にポンプ場・処理場を優先しますが、これが終われば、重点的に管路の長寿命化なり耐震化の方に向けていきますので、耐用年数50年に何とか間に合うように、向かっていきたいと考えているところです。</p>

委員	わかりました。ありがとうございます。
会長	ありがとうございます。 私の方からもう1つ質問なのですが、重要幹線の中で来年にも再来年にも耐用年数50年が経つようなものはありますか。それは当然、長寿命化対象であり、耐震化と長寿命化は管更正であればイコールだということでそれが着実に整備されて、処理場・ポンプ場が優先といえども8ページの目標である65.4キロの中には入っていると理解すればいいでしょうか。
事務局	下水の整備というのは処理場に近い方から整備していきます。耐用年数が現在40年以上たってる管路はかなりの管路数あります。
会長	優先度の高いところはその中に入っていて、ポンプ場・処理場が優先とは言えども、例えば避難所とつなぐ幹線に関して目標値65.4キロの中で避難所に指定されているようなところと直結する幹線をクリアできるようなイメージなんでしょうか。
事務局	135.7キロある重要幹線は防災拠点や避難所につながる管路、処理場やポンプ場に直結する管路が対象になります。そういった重要幹線が75.1キロ残っているということです。
会長	分かりました。すべてはすぐには難しいということですね。 他にご質問等ございますか。
会長	もう1点私の方からすみません。14ページのストックマネジメントのところで質問です。今の管路の話と通じるのですが、ストックマネジメントは計画を立てるということだと思うのですが、実際に現在17ヶ所の計画を立てられて8年度末には、24ヶ所の計画を立てられてると、17ヶ所建てられた段階で予算平準化して、予算の範囲内でやっていけそうな状況なんでしょうか。それとも相当、予算的にも厳しい状況なんでしょうか。実際に予算平準化して改築更新のスケジュールを組み込んだ時に予算的にはどうなのか現段階の見通しがあれば教えていただきたいです。
事務局	経営戦略のご説明ということで、この計画を立てて事業を進めていった場合にこれぐらいの予算がかかりますということを見込んで、経営戦略の事業費試算を行っております。あとは先ほど部長からありましたが、なかなか鳥取市単独の力だけでそれを改築していくというのは、結構無理があります。国からの補助金であるとか、そういうものの財源がきちんと追いついてきた暁には、ある程度整備が進められるという計画は立てておりますが、問題は予算が追いついてくるか、職員数も減っておりますので、そういったことで、対応できるかというのは、こちらの方に問題点と

事務局	してあります。計画上としては、ある程度見込んで進めているということ でございます。
会長	ありがとうございます。その他ご質問等いかがでしょうか。
委員	<p>何点か質問させてください。</p> <p>1つ目が13ページの下水道への接続率の向上による水質改善の ところで全体の接続率は上がっているのですが、供用開始後3年目は下 がっていることについて教えていただきたいです。</p> <p>2つ目が8ページの広報啓発活動のところで当初値は437人で現 在値が711人と目標値を超えていて、コロナ禍でイベント等が中止 になってる中で数値が伸びている理由を教えていただきたいです。</p> <p>3つ目が16ページの使用料徴収率の向上のところで、集落排水は 徐々に上がっているのですが、公共下水道の方は長期的に見ると変わ ってないように見えます。これには何か原因があるのか教えていただ きたいです。</p>
事務局	<p>1つ目の接続率と3つ目の使用料について説明をさせていただきます。</p> <p>1つ目の接続率についてですが、供用開始後3年間の分母に対して どれだけの接続がなされたかという話ですので、供用開始された地域 ごとの率になります。戦略を立てた当初の地域は72.7%が接続し ていただけましたが、近年は住宅が整備されたところにすでに汲み取り から合併浄化槽にかわっているところが増えてきています。</p> <p>我々の地道な努力として説明会等行ってはいますがなかなか浄化槽 の耐用年数がある間というのは結びつきづらいということがありま す。そういった事情があって地域地域の実情で、その辺の接続率が昔ほど 高い率にならないというのが現状だと認識しています。</p> <p>下水道使用料についてですが、徴収率いわゆる現年度賦課分といいますが、 今年度使った分に対しては使用料の徴収をしています。一般会計だと 出納閉鎖期間が4月から5月末ぐらいまでが前年度の収入になるという制 度ですが、下水道会計が企業会計であることから3月31日をもって事業 年度が終了してしまうという事情もあるのかと思います。いろいろな取り 組みの中で徴収の督促を出したりしてますが、98から99の1%が壁で して、取り組み自体はやっており、わずかに変動しているのですが、これ からも努力をしたいと考えております。</p>
事務局	2つ目の見学者のことについてですが、3年度については711人 と目標を超えているところなんですけども、実際のコロナの影響としま しては令和2年度は、240名と見学者がかなり少なくなっています。令

事務局	和3年度に関しましては感染対策の方法など、いろいろな情報も入ってきまして、対策をしながら見学ができるというようになってきました。主に小学校などの団体が多く、令和3年度につきましてはコロナ対策をしながら人数的には影響が大きくなかったと考えております。
委員	ありがとうございます。 一つ接続率のところ、供用開始した地域ごとの各家庭の状況、早く下水道につなげたい人が多い地域だったら接続率が上がる、合併浄化槽を設置しているなど早く下水道に接続しなくてもいい方については接続が遅くなる、少しずつ上がってくるのではなく折れ線グラフのようになると理解すればいいですか。
事務局	その通りだと思います。合併浄化槽の入っているところもありますし、例えば町内会どうして広めてくれる地域が多いと接続率が高くなることもありました。その辺が様々で年によって接続率が変わってくると理解しているところです。
会長	ありがとうございます。その他ございませんか。 それでは質問も出尽くしたということで、この目標値に向かって限られた予算ではあるかと思いますが、頑張ってくださいと思います。以上で議事を終了させていただきます。5番のその他ですけども事務局の方から何かございますでしょうか。
事務局	それでは事務局の方より今後の審議会の開催の予定についてお伝えさせていただきたいと思います。現在の予定ではありますが、下水道事業の運営に関する重要事項としまして来年度に、鳥取市下水道事業経営戦略の見直しを予定しております。今年度につきましては、今回以降審議会の開催予定はございませんが、今年度の決算状況も踏まえまして、来年度夏ごろに、経営戦略の見直しについて、審議会を開催させていただこうと、現在考えておるところでございます。 その際またご連絡、ご案内させていただきますのでよろしく願いいたします。
会長	ありがとうございました。 それでは、最後に委員の皆様何か発言したいことはございませんか。それでは以上をもちまして第1回鳥取市下水道事業、運営審議会を閉会いたします。 委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきありがとうございました。
委員	ありがとうございました。
事務局	本日はありがとうございました。

上記のとおり相違ないことを証明する。

令和 年 月 日

会 長

委 員

委 員